

1 単元名 根拠を吟味して書こう
～**市観光プランを提案しよう～

2 単元の目標

- (1) 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。
〔知識及び技能〕 (2) ア
- (2) 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えるなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 B (1) ウ
- (3) 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 B (1) エ
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立てて、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

3 本単元における言語活動

観光プランについて、提案文を書く。(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕 B (2) ア)

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2) ア)	①「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えたりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B (1) ウ) ②読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。(B (1) エ)	①積極的に自分の文章の改善点を見だし、提案を述べる文章を書こうとしている。

5 単元について

(1) 教材観

本教材は、根拠の適切さについて吟味することを目的としている。また、自分の考えが分かりやすく伝わるよう、文章の構成を工夫して書くこともねらいとしている。そのために、社会生活において、どちらがよいかわからない問題に対して意見文を書く構成になっている。今回は、問題を自分事として捉えるために、**市の観光プランを、市の観光協会に提案する文を書くという言語活動を設定した。提案文を書き、対話を生かして推敲することで、根拠の適切さを考え、表現の効果を確認しながら書く力を育むことができると考える。

(2) 生徒観

本校生徒に対し、自分の考えを書く力に関する実態調査(令和5年*月*日実施、第2学年*組*人)を実施した。自分の意見が書けた*名の中で、複数の資料の中から、問いの目的や意図に合った根拠を選択し、自分の考えを書くことができた生徒は*人、資料を根拠として意見は書けたが、資料の内容を適当に解釈し、導き出された内容を根拠として具体的に示すことができた生徒は*人、複数の資料の中からどれを活用していいかわからず、無答になってしまった生徒は*人という結果であった。このように、自分の考えが伝わる文章を書くために、自分の考えと、それを支える根拠とのつながりに留意して書くことに課題がある。

(3) 指導観

本研究では、中学校第2学年「根拠を吟味して書こう」の学習において、他者との対話を推敲に生かし、観光提案文を書く言語活動を位置づける。書く活動を行うにあたり、書くことに抵抗を感

じる生徒も多いと予想される。そこで、生徒が主体的に書く活動に取り組めるよう、書く目的を「観光提案文を書き、市の観光協会に提案すること。」とする。このように、目的や対象を明確にすることで、生徒がこの活動に意欲的に取り組むことができると考える。そこで、この活動では、市を訪れるどのような人に、どのような観光プランを、どのような根拠を示して提案するのかを互いに吟味し合い、それぞれの生徒が書いた提案文をよりよいものにしていく。提案文を書く活動では、「提案・理由・根拠・まとめ」の順で文章を整える。書いた提案文は、よりよいものになるよう、対話を通して、根拠が適切か、根拠をどのように文章中に記述するかなどについて、互いに意見を交わす。対話によって得た気付きを、それぞれの推敲に生かす。対話と推敲については、対話する相手を変えて2度行う。視点を変えて根拠を再検討することで、さらに考えを広げたり、深めたりすることができる。このように、対話による気付きを生かして推敲し、提案文を書く活動を行うことで、目的や意図に応じて、根拠の適切さを考え、表現の効果を確かめて書く力を育てることができると考え、本主題を設定した。

6 単元の指導計画（7時間）

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価及び評価方法等
1	1	- 単元全体の見通しをもつ 読み手に受け入れられる提案文にするには、どのようなことを意識すればいいのだろう。 - どのような人に向けての観光プランにするか意見を出し合う。 - 各自、観光プランに取り上げる場所を2カ所選び、提案文を構想する。 まとめ 誰に何を提案するのか、相手や目的を意識して書く必要がある。				「単元計画表（振り返りカード）」をもとに、本単元全体の流れをつかめるようにする。 「提案文」のモデルを提示し、どのような言語活動を行うのか、どのような力が付くのかを確認できるようにする。 - 観光プランを提案するために、対象をどのような人にするのか、意見を出し合う場を設定する。 - 対象を踏まえ、各自、観光プランに取り上げる場所を2カ所選ぶよう指示する。 - 振り返りカードを書き、各時間の気付きをまとめられるようにする。
	2	どのようなアピールポイントを挙げれば、読み手は納得するのだろう。 アピールポイントを裏付ける根拠を見つけ、ワークシートに記入する。 まとめ 読み手を納得させるアピールポイントにするには、具体的な根拠が必要である。	○			- 理由と根拠の役割を説明し、その役割を意識して根拠を探せるようにする。 - アピールポイント、それを支える根拠、根拠の典拠を記入するワークシートを用意する。 - アピールポイントを考えるよう指示することで、どのような根拠を探せばいいか整理できるようにする。 知②：意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解できたかを見取り、具体的な根拠を見つけられない生徒には、参考資料を提示し、その中から必要な情報を見つけられるようにする。 【ワークシート・振り返りカード】
2	3	どんな書き方をすれば、読み手に提案内容が伝わるのだろう。				「具体と抽象」「事実と意見」の関係を考える問題を行い、意識して内容を記入できるようにする。

	・「提案内容・理由・根拠1・根拠2・まとめ」に書く内容を分けて、段落色分けカードに記入する。(オクリンク) ・記入したカードの内容を生かし、提案文を原稿用紙に書く。 まとめ 書く内容を項目ごとに整理し、順序立てて書くと読み手に伝わりやすい。		○	・オクリンクを活用し、項目段落ごとに色分けしたカードに、内容を記入できるようにする。 ・「提案文書き方サポートシート」を用意し、書き方に困ったときに振り返ることができるようにする。 ・色分けカードに記入した内容を「文章構成シート」に並べることで、全体の構成を確認できるようにする。 思①：提案内容の根拠となることを、具体的に記述できているかを見取り、それぞれのカードに、内容を書き出せない生徒には、「提案文お助けシート」を参考にするよう助言する。 【オクリンク内のカード】 知①：意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。 【オクリンク内のカード】
4 本 時	目標：根拠の適切さを考えて、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫することができる。 1 学習課題を確認する どのような根拠を書けば、読み手が納得する提案文になるのだろう。 2 根拠について検討する。(発表・検討) ○対象が同じ、又は似ている観光プランを考えている生徒でグループを作り、互いの根拠を検討する。 ・自分の書いた提案文について、その根拠を挙げた意図などを説明する。 ・それぞれの説明を聞いてから、アドバイスカードを書き、根拠の適切さについて検討する。 4 本時のまとめをする まとめ 自分の考えだけでなく、具体的な数値や客観的な事実を挙げれば、読み手が納得する提案文になる。		○	・読み手が納得する提案文になるよう、根拠の適切さについて検討することを確認する。 ・対象が同じ、又は似ている観光プランを考えている生徒同士でグループを編成することで、同じ視点で根拠について検討することができるようにする。 ・それぞれが書いた意図を説明する時間を設け、相手の意図を踏まえた上で、根拠の適切さについて検討できるようにする。 ・検討がスムーズに進むよう、話し合いのポイントを示したり、根拠チェックシートを用意したりする。 思①：根拠の適切さについて考えられているかを見取り、アドバイスカードが書けない生徒には、根拠チェックシートを参考にして、書かれている内容を検討するよう助言する。 【観察・アドバイスカード】 ・気づきを共有し、根拠の示し方についてまとめられるようにする。 ○ 態①：自分の文章の改善点を見だし、提案を述べる文章をよりよくしようとしているかを見取り、改善点が見つけられない生徒には、友達のアドバイスを参考にするよう助言する。 【観察・振り返りカード】

		5 振り返りを書く この時間で学んだこと、できるようになったことを、単元の振り返りカードに記入する。			単元を通して使う振り返りカードを用意することで、1時間ごとにどんな力が付いたのか、それぞれが達成度を確認できるようにする。
	5	読み手が納得する提案文にするには、どのようなことを意識して推敲すればいいのだろう。 - 各グループが、前時の話し合いの内容を発表し、全体で推敲に役立つ気づきを共有する。 - 話し合いで得た気づきを生かし、自分の提案文を推敲する。 - 各自提案文を原稿用紙に書く。 まとめ 読み手が納得する提案文にするには、根拠の適切さや、根拠を書く順序などを意識する必要がある。		◎	- 話し合った内容を、全体で共有する場を設けることで、推敲への意欲を高められるようにする。 - 根拠を再検討し、必要であれば資料を再検索するよう助言する。 ○ 態①：自分の文章の改善点を見だし、提案を述べる文章を書けているかを見取り、書けていない生徒には、友達のアドバイスや「提案文お助けシート」を参考にし、書くよう助言する。 【観察・振り返りカード】 思①：根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えたりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫しようとしている。 【観察・原稿用紙】
	6	読み手が納得する根拠になっているだろうか。 - 違う対象に観光プランを考えている生徒でグループを作り、根拠について検討する。 - 話し合いで得た気づきを生かし、各自推敲する。 まとめ 読み手が納得するには、いろいろな視点から根拠を検討する必要がある。		◎	前回の話し合いと違う生徒同士のグループを作ることで、違った視点から根拠について検討できるようにする。 思②：読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えようとしている。 【観察・原稿用紙】 ◎ 態①：積極的に自分の文章の改善点を見だし、提案を述べる文章を書こうとしている。 【観察・原稿用紙】
3	7	読み手を納得させる提案文には、どのような特徴があるのだろう。 - 提案文を原稿用紙に清書する。 - 対象が同じ、又は似ているグループで再度読み合い、相互評価を行う。 まとめ 読み手を納得させる提案文には、意見を支える適切な根拠が、適切な場所に示されている。			- 提案文を観光協会に提出することを再度確認し、読み手を意識して清書できるようにする。 - 最初のグループで再度読み合うことで、お互いの変化を見とり、よりよい提案文について考えることができるようにする。